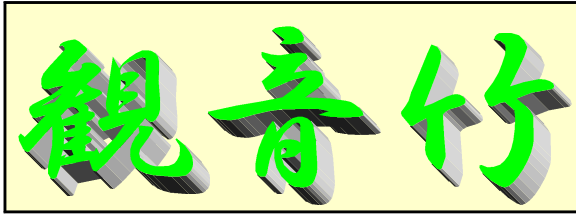


【学校教育目標：自他を大切にし、自律できる八幡小の子どもを育てる】



6月の目標

生活：雨の日の生活を工夫しよう
保健：歯と口の健康づくりにつとめよう
安全：室内での安全な過ごし方を工夫しよう

令和3年 6月号
R3. 6. 1 発行

<http://eshachiman.synapse-blog.jp/hachimanes/>

一本の電話から

校長 濱元 弘

電話が鳴った。

「稲の苗があるのですが、学校で取り組んでみませんか？」

6月1日 火曜日の午後3時頃だった。

平内民具倉庫の黒飛さんからの連絡でした。話を聞きながら、ワクワクしてくる気持ちを抑えながら、「取り組む方向で調整します。」と電話を切りました。それから24時間も経たないうちに、飼育小屋前の花壇が田んぼに変わり、それだけでなく田植えまで終わっていました。いきさつは次のとおりです。

黒飛さんからの電話の後、5年担任の先生に話もちかけたところ、取り組みたいと即答でした。5年生は、未来を支える食料生産「米づくりのさかんな地域」という学習に入るところだったのです。とてもいいタイミングでした。すぐに、黒飛さんに「取り組みます。苗をいただきたい。」と連絡しました。その時は、花壇を田んぼに仕立てたり授業時間を調整したり、田植えをするまで3～4日かかるだろうと思っていました。この取組は、幼稚園にももちかけました。幼稚園の先生方も「やります。」と即答でした。（幼稚園は、道具を準備中。ケースの中で育てる予定です。）

飼育小屋前の花壇を田んぼにどうやってしていくのか悩みました。そこで、教頭先生にお願いして学校応援団に登録している岩川篤浩さんに連絡したところ、すぐに学校へ来ていただきました。

ここからが驚きでした。学校（所有は幼稚園）の耕耘機を使い、花壇を耕し、水を入れ、代かき・・・瞬く間に花壇が田んぼに大変身。30分後には、田植えができる状態になりました。急いで黒飛さんに連絡し、学校に苗を届けていただきました。そして、翌日（2日 水曜日）の午前中に5年生が田植えを行ったのです。

黒飛さんにこのいきさつを話すと、「すごいですね。地域力ですね。」と言われました。納得の一言です。先月号で書いた「みんなで八幡小の子どもたちを」が実践されたのです。八幡小校区の人材の豊かさに驚かされた一日でした。

今回のことだけでなく、八幡小校区の方々、子どもたちのために、いろいろなことを考え、力を貸してください。

「子どもたちのために、私たちにできることを何かさせてください。」

このような言葉をよく聞くのです。後日案内がありますが、保護者の佐藤さん、鈴木さんによるプログラムも今月計画されています。

